

実施事業： 被災地への支援事業  
実施者名： いぐすぺ南三陸倉敷実行委員会  
助成金額： 500,000円

### 実施した事業の内容・成果

東日本大震災以降交流があった団体が、発災当初から真備町に入って支援を行いました。

まず8月26日より10月7日までの期間、真備地区で被災したNPO法人の活動や再建を支援することで地域に人を留まらせ、将来的にコミュニティの再生につなげるための活動を実施しました。炊き出しやカフェを開催することによって地域の交流と被災者へのケアを行いました。

復興にはまだまだ時間がかかります。コミュニティの再建も不確定なところばかり。しかし、私たちは終わることはできません。東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町も8年経った今も復興の最中です。

真備では家から外に出ない方、雨が降る度胸が痛くなる方もいます。そーる訪問看護ステーションは今後も、被災された方々と共に歩み続けます。そのための場作りを行うそーるの皆さんのサポートを今後も長期間において活動していきます。



その後、11月1日から平成31年3月末までは、毎週一回「enrichi カフェ」と銘打ったカフェを新たに開催しました。まだまだ外に出ることが難しい人や、時間の過ごし方を見つけられない人のために、カフェ形式の気軽に立ち寄れるスペースを作っていました。

和みの場は声をかける場から語らいの場へ進化し、少しずつ地域の方にも変化が見られ始めました。

また地域の中での交流以外にも、私たち「いぐすぺ南三陸」が当初から支援を行ってきた南三陸町からも、この期間で多くの方にお越しいただきました。東日本大震災で被災した街の人からの「必ず復興できるから」の言葉は、当事者だからこそ力強い言葉であり、多くの人々の心に残るものとなりました。

## 決算報告 (※原則として領収書の写しを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

| 費目   |         | 金額 (円)  |
|------|---------|---------|
| 収入の部 | ももたろう基金 | 500 000 |
|      | その他     | 493     |
|      |         |         |
| 収入合計 |         | 500 493 |

| 費目  | 算出根拠           | 金額 (円)                    |
|---|----------------|---------------------------|
| ①当プログラム助成金 対象費目<br>当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充る費目 | 運搬燃料費          | 運搬に際するガソリン代 9 720         |
|   | 消耗品・活動費        | 熱中症対策などのドリンク・水代金など 76 727 |
|   | 炊き出し材料費        | 目安・週40000×7週分 169 938     |
|   | カフェ材料消耗品       | 目安・10000×6回分 16 646       |
|   | 開催にあたる設備・レンタル費 | 目安・15000×7回分 54 212       |
|   | enrichカフェ      | 運搬/燃料費 28 391             |
|   |                | カフェ消耗品 82 629             |
|   |                | レンタル費 54 000              |
|   |                | 印刷費 2 040 、設備費 6 190      |
|   |                | 小計 500 493                |
| ②その他費目<br>当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てない費目        |                |                           |
|   |                |                           |
|   |                |                           |
|   |                | 小計 0                      |
| 支出合計  |                | 500 493                   |

## 寄付者へのメッセージ

今回の活動により、報道ではわからない心のケアが必要だと感じました。また悲しみの反面、多くの笑顔を見てきました。今回の期間で少しでも寄り添う支援、被災されても町のために活動される方々を私たちは今後も継続して支援、サポートを続けて参ります。

まだまだ復興への道のりは長いですが、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

## 今後の活動

被災地の復興は始まったばかり。健康面が気になるので、今後も継続した活動を実施していきたいと考えています。そして今後起こりうる心のケアについても、活動される方々のサポートを含めて行っていきます。

今までの活動の中で、心が痛む場面にも何度も遭遇しました。それでも私たちは地域の皆さんに寄り添って、一緒に歩む道を選択しました。

今後も活動をおこない、ともに助け合う気持ちを忘れず、復興できるその日を目指して進んでいきたいと思っています。